2024 年 2 月 22 日作成　Ver.1.04

≪情報公開文書≫

肝移植手術症例での生体侵襲下における DAMPs(Damage Associated Mollecular Patterns)とレシピエント予後との関連

研究の概要

【背景】
手術後にインターロイキン等の炎症性サイトカインが上昇し、それらの応答により細胞が障害を受けた際に放出するダメージ関連分子パターン(DAMPs：Damage Associated Mollecular Patterns)が増加することが知られています。また臓器に血液が再灌流した際に引き起こされる虚血再灌流障害は肝切除術や肝移植における合併症の一つであり、DAMPs の増加が原因の一つとされています。また、レシピエントの移植手術中に発生した DAMPs の増加量がレシピエントの術後の循環動態などに影響を及ぼすとされています。DAMPs が手術侵襲により増加することはレシピエントの血中 DAMPs の推移から明らかになりました。一方でドナーの手術中の侵襲で DAMPs がどのように推移し、レシピエントの予後にどのように影響するかは明らかになっていません。

【目的】
本研究では肝移植手術における、ドナーの手術前後の血中の DAMPs 発現が、レシピエントの予後・術後経過に影響を与えるか明らかにします。

【意義】
術後グラフト不全や虚血再灌流障害のリスク因子を明らかにすることが出来ると考えています。

【方法】
本研究では研究対象者の診療録より情報を収集すると共に、術中に採血し、保管してある患者さんの残余血清で DAMPs(HMGB1、HSP60)、炎症性サイトカイン(IL-1β、IL-8、IL-10、TNF-α)を測定します。

対象となる患者さん

2008 年 1 月 1 日から、2023 年 3 月 31 日の間に、生体肝移植のドナー・レシピエント手術を受けた方

研究に用いる試料・情報

性別、年齢、生年月日、身長、体重、合併症、既往歴、現病歴、検査結果（血液検査、画像検査）、使用薬剤名、手術記録、術後生存期間、残余血清検体(DAMPs；HMGB1、HSP60　炎症性サイトカイン；(IL-1β、IL-8、IL-10、TNF-α)
本研究で利用する情報について詳細をお知りになりたい場合は下記のお問い合わせ先までご連絡ください

試料・情報の利用開始予定日

本研究は 2024 年２月 27 日より「研究に用いる試料・情報」を利用する予定です。

あなたの試料・情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。
ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。
あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2024 年３月 31 日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院　先端技術展開外科学 氏名：曽山　明彦 住所：長崎県　長崎市　坂本１−７−１ 電話：095（819）７３１６
試料・情報の管理責任者	長崎大学病院　病院長

問い合わせ先

【研究の内容、試料・情報等の利用停止の申し出について】
長崎大学病院　先端技術展開外科学　曽山　明彦
〒852−8501　長崎市坂本１丁目７番１号
電話：095（819）７３１６　　FAX　095（819）７３１９

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）
苦情相談窓口：医療相談室　095（819）7200
受付時間　　：月～金　8：30～17：00（祝・祭日を除く）